

樹勢診断×土壌診断で窒素施肥量を判断しよう！

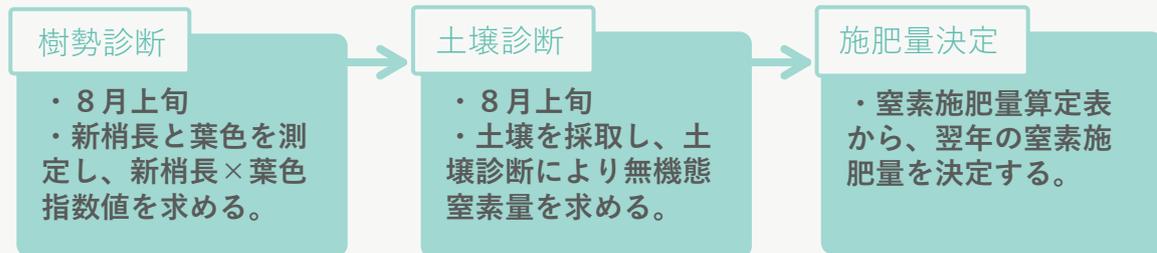
～りんご普通栽培・成木ふじ対象～



青森県では、標準施肥量15kg（10aあたり窒素成分量）を基準とし、生産者は達観による樹勢判断で個々の園地の適正量を見出す必要がありました。しかしこの方法では、数年かけて徐々に適正量を見出さなければならないことや、経験が浅く樹勢が判断できない新規就農者などには難しいなどの側面がありました。そこで、樹勢診断を客観的な指標で示すとともに、土壌診断を併用して、安全な減肥量を簡便に見出す方法を作成したので、その方法をご紹介します。

1

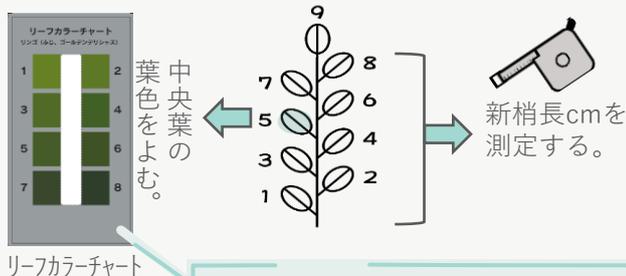
施肥量判断の流れ



2

樹勢診断

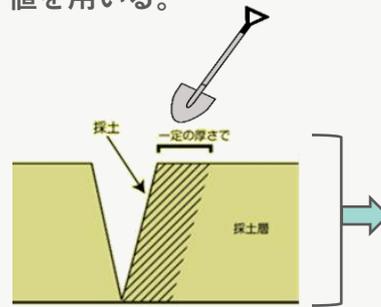
①樹冠周縁全体の目通りの高さの側枝先端新梢長を1樹あたり40本計測する。②側枝先端新梢の中央葉の葉色をリーフカラーチャートを用いて40枚調査する。③それぞれの平均値を掛け合わせ、新梢長×葉色指数値を求める。



3

土壌診断

①樹勢判断した樹の樹冠下から、深さ0～30cmの土を採取する。②採取した土壌はJ A全農あもり土壌分析センターへ分析を依頼し、土壌診断書に記載された「無機態窒素」の項目の数値を用いる。



まず30cmの穴を掘り、その側面をスコップでこそぐと、0～30cmの土壌が均等に採取できる。

4

窒素施肥量算定表

項目2と3で得た新梢長×葉色と土壌診断値を窒素施肥量算定表に当てはめ、示された数値が翌年の窒素施肥量（成分量）となります。

火山灰土壌の窒素施肥量算定表（10aあたり窒素成分量）

新梢長×葉色指数値 (樹勢)	土壌の無機態窒素診断値		
	0～2.5未満	2.5～5.0	5.0以上
180以上(強)	7kg	2kg	0kg
120～180(中)	10kg	5kg	0kg
120未満(弱)	15kg	15kg	15kg



本報では、技術内容を部分的に抜粋して掲載しています。技術の全容や詳細については、こちらのサイトを参照の上、実施してください。

樹勢と土壌の診断に基づいた窒素施肥量の算出方法
(りんご普通栽培・成木ふじ対象)

<https://www.aomori-itc.or.jp/docs/2019050800018/files/R7-1.pdf>

